

令和5年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立大井川南幼稚園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

<評価方法>

- ・下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
- ※点数は左記のとおり<A…そう思う(4点)/B…どちらかといえばそう思う(3点)/C…どちらかといえばそう思わない(2点)/D…そう思わない(1点)>
- ・項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.7 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「心やさしい元気な子」に近づいてきている。	
応保に護つ者へへの対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.8 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会(参観日等)を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.8 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人権を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.5 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子ども個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくため説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもとの状況に合わせ、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える(遊び用具や掃除用具の片付け等)ことを促す工夫をしている。		
31 時間や提出物の期限を守っている。		
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
援助導に計つ画、いて週案、幼児理解、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.4 /4
	34 子ども一人一人の実態(発達の状況や興味の対象等)を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子ども意欲を誘うよう工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適切な環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもとの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価(評価項目の達成及び取組状況)
4~3.1	A…十分達成されている
3~2.1	B…達成されている
2~1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1~0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.6 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

今年度は重点目標を「友達と繰り返し遊ぶ子」としました。子ども達が「もう一回やりたい。」「明日もやりたい。」と声を上げて遊びを楽しむ。もっと楽しくなるように、友達と一緒に、試したり工夫したりする。そんな姿を目指して、一人一人がもっと遊びたいという気持ちになるようにしてきました。友達と声を掛け合って、ドッチボールや鬼ごっこをはじめの子。「仲間に入れて」と言って、自分から遊びに入っていく子。どの子もみんな笑顔で、元気いっぱい園庭を駆け回って遊ぶ姿に、一年間の大きな成長を感じます。

・本年度努力した点、改善した点

本年度は、保護者の皆様も仲間づくりができるように、親子で触れ合って遊び、親同士のかかわりがもてる参観日にしました。3回の参観日に全員が参加することで、お互いの顔がわかり、話すきっかけになり、子どもも大人もふれあいを楽しむ時間になりました。「幼稚園が大好きで、友達が大好きで、家では出来ないこともたくさん出来て、凄く楽しいみたいです。」とっていただき、大変嬉しいです。これからも、子どもを真ん中にして、家庭と幼稚園がつながって、一緒に成長を見守っていきたいと思います。

・苦心した点、反省すべき点

能登半島の大震災を受けて、「改めて地震が怖くなりました。園舎は潰れないか？津波が来るまでに逃げられるのか？避難場所に行くまでに事故にあわないか？とても心配です。」とご意見をいただきました。保護者様の不安を解消するように、地震が来た時の避難の仕方、備えや予想される想定を今一度、園職員で周知、確認して保護者様にお伝えしていきたいと思えます。幼稚園では、保護者様にお子様を引き渡すまで、お子様の安全が第一と考えています。今後は、避難訓練の様子や命を守るために園が大切にしていることについて園日より定期的に情報発信します。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

園目標は「心やさしい元気な子」です。来年度の重点目標は今年度に引き続き「友達と繰り返し遊ぶ子」としました。遊びや生活の中で、年齢の違う友達とのかかわりを大切にしていきます。大きい子は小さい子にやさしくし、小さい子は大きい子に憧れをもって過ごします。年齢の違う友達が深くかかわりをもって、一緒に遊ぶことで、言葉の引き出しや実体験を増やしていきます。友達と一緒に遊ぶことが楽しい、そして、どうしたらもっと遊びが楽しくなるか思いつく子に育て「こうしたら面白くなりそう」「もっとこうしたい」遊びを工夫していく力をつけるようにします。そのための遊びの場を、子どもたちと一緒に作っていきます。